

大切なこと、もっとやさしく

Tomoniile

ニチイの
医療・介護情報誌
[ともしる]

医療特集 日々進化する
最先端医療の世界

介護特集 認知症をもっと理解したい！
バリデーションの手法

Tomoniile Interview

日本トラーベルヘルパー協会理事長

篠塚 恭一さん

特集 いきいき過ごすために

学びを楽しみましょう

1・2 2012
vol.17

篠塚 恭一さん 日本トラベルヘルパー協会理事長

しのづか きょういち
1961年千葉県生まれ。観光専門学校卒業後、大手旅行会社で添乗員を務め、84年に添乗員の人材派遣会社に転職。91年に株式会社SPIを設立、代表取締役となる。2006年にNPO法人「日本トラベルヘルパー外出支援専門員協会」を設立、理事長に就任。



心と身体を癒す 「旅行の夢」を叶えたい

いくつになっても 旅行を楽しんでほしい

「年齢や体調を理由に旅行を諦める方がいますが、実はどんな方でも楽しめます」と話すのは、介護旅行を企画・運営する「あ・える倶楽部」の篠塚恭一さん。年齢や体調に不安のある方をサポートしながらの介護旅行では、お客様の希望に加え、家族やケアマネジャーなどから身体の状態や様子を慎重に聞き取り、お客様に合う旅行のプランを提案します。

「旅行をする人のいきいきした姿が好き」と、約20年間添乗員をしていた篠塚さん。高齢などを理由に旅行を諦める人が多いことに気づき、「いくつになっても旅行を続けてほしい」と、介護旅行や外出支援事業を始めたそうです。

トラベルヘルパー（外出支援専門員）資格の創設もその思いから生まれました。トラベルヘルパーの役割は、食事の介助や見守り、着替えの手伝いといった介護だけではなく、現地の観光情報などを集取し、お客様が旅行を楽しんでもらえるようにエスコートすること。「常にお客様への気

たった数日間の旅行が 大きな力を引き出す

旅行が引き出すお客様のパワーに驚かされると話す篠塚さん。「言葉も通じない海外で、80歳のおばあさんが一人で買い物をしてきた、などはよくあります」。また、車いすだった人が、念願の地を自分の足で歩きたいと杖をついて歩き

出し、日常生活でも歩けるようになった方もいるそうです。念願の地に来た喜びや達成感が、お客様の自信につながり、日常生活へも大きく影響を与えるのです。「お客様に『数日間の旅行で365日が明るく変わった。次の旅行への意欲がわき、自然とリハビリに精が出た』と言われたときはうれしかったです」

篠塚さんの夢は、全国各地にトラベルヘルパーがいる社会の実現です。多くの人が諦めていた「旅行の夢」を叶えるお手伝いをしたいと、意気込みを話します。



- 1 お客様とともに那須塩原を訪れた篠塚さん。入浴介助なども行い、お客様に温泉を満喫してもらったそうです。楽しそうな笑顔は双方の絆の証です
- 2 お客様に優しく声をかけながら、目の前いっぱい広がるコスモス畑を眺めるトラベルヘルパー。介護だけでなく、お客様の心と身体を癒す旅行を提供します
- 3 トラベルヘルパーとともに、幼少期を過ごした台湾の小学校を訪問した女性。当時のアルバムに小さい頃の自身の姿を見つけて幸せそうな表情を浮かべています
- 4 66年前に戦友が散った長崎県の地を、トラベルヘルパーと家族とともに訪れた男性。現地までは、男性の思いに共感したパイロットがセスナ機を飛ばしてくれました